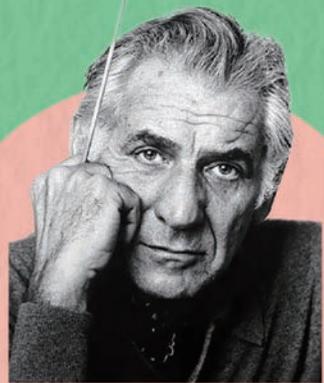


きょう 今日のコサートでは、はな ちから づよ 華やかで力強い
オーケストラのきょく や、ヴァイオリンのかつ やく 活躍する
す てき めい きょく えん そう 素敵な名曲が演奏されます。



©Jack Mitchell

レナード・バーンスタイン
(1918~1990)

LEONARD BERNSTEIN

バーンスタイン：『キャンディード』序曲

『キャンディード』は、指揮者・作曲家・ピアニストとして活躍したレナード・バーンスタイン(1918~1990)が音楽を手がけた1956年のブロードウェイ・ミュージカルです。主人公のキャンディードは、きつとなんでもうまくいく!と信じる性格で、住んでいたお城を離れ、世界中を旅し、つらいことも乗り越えていきます。「序曲」とは、お芝居が始まる前にオーケストラで演奏される音楽のこと。これから起こる冒険を知らせるように、金管楽器や打楽器が力強く鳴り響き、元気に進んでいく音楽です。



エドワード・エルガー
(1857~1934)

EDWARD ELGAR

エルガー：愛の挨拶 Op.12(管弦楽版)

優しくロマンティックなこの曲は、イギリスの作曲家エドワード・エルガー(1857~1934)が、ピアノの生徒キャロライン・アリスに婚約を申し込んだときに、プレゼントとして書き贈った作品です。エルガーは当時、まだ作曲家として有名ではありませんでしたが、8歳年上のアリスは一生懸命エルガーを支え応援しました。そんな二人の愛情の深さがよく表れた名曲です。

あくとがわ や す し げん がく さん がく しょう 大い がく しょう
芥川也寸志：弦楽のための三楽章「トリプティーク」より 第1楽章

あくとがわ や す し くも いた らしやうもん
芥川也寸志(1925~89)は、「蜘蛛の糸」や「羅生門」などで有名な小説家・芥川龍之介の息子です。彼がまだ小さな頃に亡くなったお父さんの残したレコードを聴いて、クラシック音楽に親しんできたそうです。「トリプティーク」とは、3つの絵が組み合わさって一つの作品になっていることを意味することばです。1953年にアメリカのオーケストラによって初めて演奏されました。3つの楽章でできていますが、今日はリズミカルで快活な第1楽章を聴いてもらいます。



あくとがわ や す し
芥川也寸志
(1925~1989)

AKUTAGAWA Yasushi

かん げん がく ばん
ラヴェル：ツィガーヌ(ヴァイオリンと管弦楽版)

1924年、フランスの作曲家モーリス・ラヴェル(1875~1937)によって作られたこの曲は、ハンガリーに伝わるロマの民族音楽をもとにしています。「ツィガーヌ」という題名は、フランス語で「ロマ」を意味する言葉です。曲の始まりでは、ヴァイオリンが一人で情熱的でゆったりとした美しい音楽を奏でます。その後、オーケストラが加わり、ヴァイオリンと一緒にメロディーを華やかに変化させ、クライマックスへと向かいます。



モーリス・ラヴェル
(1875~1937)

MAURICE RAVEL



ヨハン・シュトラウスII
(1825~1899)

Johann STRAUSS II

J.シュトラウスII：美しく青きドナウ Op.314

「ドナウ」とは、ドイツ、オーストリア、ハンガリー、ルーマニアなど、ヨーロッパの国々を流れる大きな川の名前です。オーストリアの作曲家J.シュトラウスII(1825~1899)がこのワルツを作曲したころ、オーストリアは戦争に敗れたばかりでした。ヨハン・シュトラウスIIは首都ウィーンの人々を励まそうと、ドナウ川ほとりの水鳥や花、空の青さや川に映る月などを歌った合唱曲「美しく青きドナウ」を作りました。それがオーケストラ用に編曲されると大人気となり、ヨハン・シュトラウスIIの最高傑作と言われるようになりました。

シベリウス：交響詩『フィンランディア』 Op.26

フィンランドの作曲家ジャン・シベリウス(1865~1957)が1899年に作った「フィンランディア」は、当時ロシアに支配されていた祖国への愛情を込めた音楽です。曲の始まりは重く暗い感じで、支配に苦しむ人々の様子を表しています。音楽はだんだん力強くなり、困難に立ち向かう気持ちを表現します。中間の美しいメロディーは、後に「フィンランディア讃歌」という歌になり、今でもフィンランドの第2の国歌として親しまれています。この曲は国民をととても勇気づけたため、ロシア政府が演奏を禁止するほどでしたが、人々は大切に演奏を続けました。



ジャン・シベリウス
(1865~1957)

Jean SIBELIUS